

家庭学習プリント【6年理科No.1】(教科書p. 6～9)

6年()組()番 名前()

○ 学習の準備(じゃがいも・ホウセンカ)《p. 9参照》

【じゃがいもの植え方】

① 土を深く耕して()を入れ、約()cmの深さに

()を植える。

② じゃがいもが約()～()cmにのびてきたら、()の

よいものを残して育てる。

()をおさえて、ねじりながら引きぬく。

【ホウセンカの植え方】

① 花だんを耕して()を混ぜ、1か所に()～()つぶずつ

約()cmの間を空けて種子をまく。

種子がかくれる程度に()をかける。

② 葉が()枚ほどになったら、()のよいものを残して育てる。

○ 私たちの生活と環境《p. 6～8参照》

p. 6・7のイラストを見ながら、私たちの生活がどのように環境に関わっているのか、6年間の学習を通して、気づいたことを書こう。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

家庭学習プリント【6年理科No.2 ものの燃え方①②】(教科書p. 10~13)

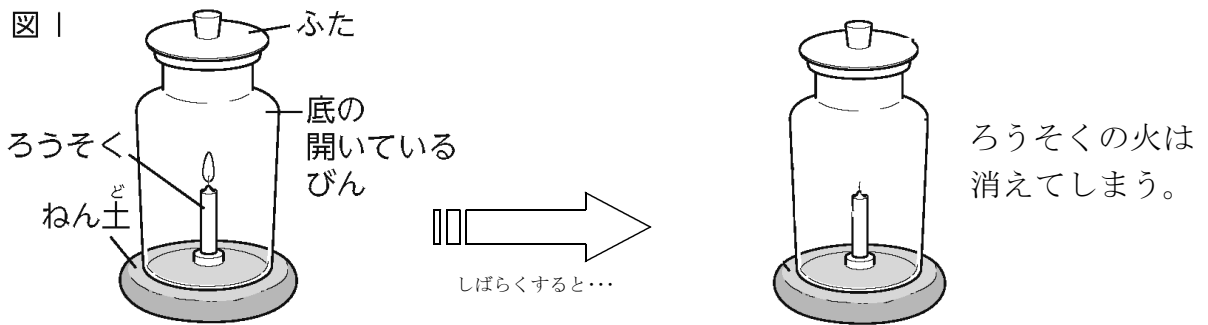
6年()組 ()番 名前()

○ ものの燃え方と空気《p. 11参照》

問題 ろうそくが燃えるときの空気の様子を調べよう。

1 予想しよう

図1のように、底の開いているびんの底をねん土でふさぎ、その中でろうそくの火を燃やす。ふたをしてしばらくすると、ろうそくの火は消えてしまう。

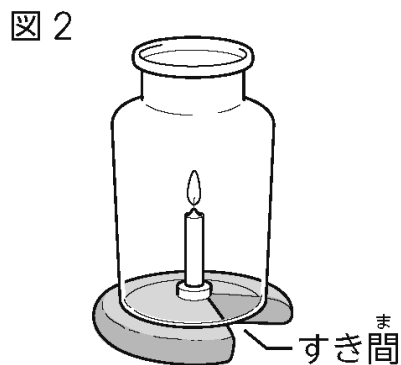


ろうそくが燃え続けるためには、どのようにすればよいだろうか。

2 確かめよう①《p. 12参照》

図2のように、下のねん土を切りとってすき間をつくり、ふたを外すと、ろうそくの火はどうなるだろうか。教科書で結果を調べよう。

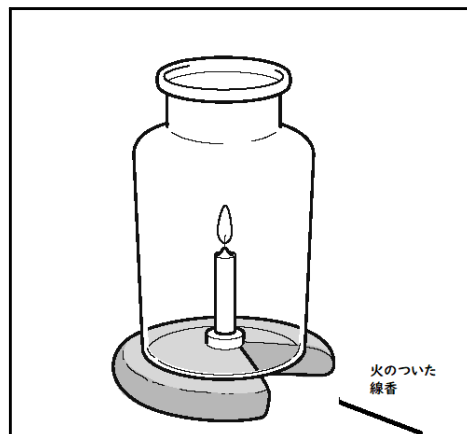
また、なぜそうなったのか、その理由も考えよう。



結果
理由

3 確かめよう②《p. 13参照》

火のついた線香をすき間に近づけたときの、線香のけむりのうごきを、右の図にかき入れよう。



4 まとめよう《p. 14参照》

図1と図2それぞれの空気の様子について、図と言葉でまとめよう。

	図1	図2
空気の様子を図にかき入れよう		
空気の様子を言葉でまとめよう		

☆ () の中にあてはまる言葉を書き入れよう

ものが燃え続けるには、() が () 必要がある。

家庭学習プリント【6年理科No.3 ものの燃え方③④】(教科書p.14~16)

6年()組()番 名前()

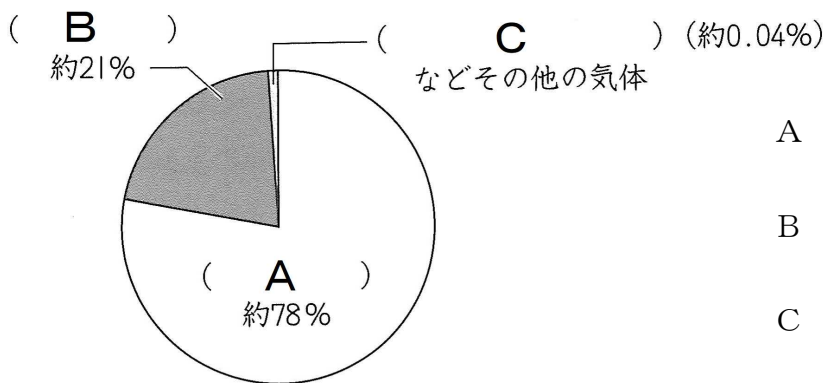
○ ものの燃え方と空気

問題 ちっ素、酸素、二酸化炭素にはものを燃やすはたらきがあるのだろうか。

1 知ろう《p.14参照》

空気はちっ素、酸素、二酸化炭素などの気体からできている。

グラフのA・B・Cにあてはまる数値を()に書き入れよう。

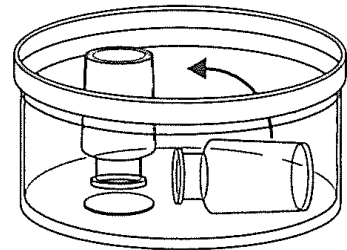


2 実験準備をしよう《p.15参照》

気体ごとに集める方法をまとめよう

① ()の中にびんを入れ、右の図

のように口を()にして立てる。

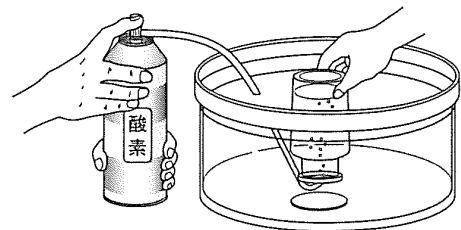


② ちっ素、酸素、二酸化炭素を

それぞれ別のびんに集める。

()の中で気体を集め、

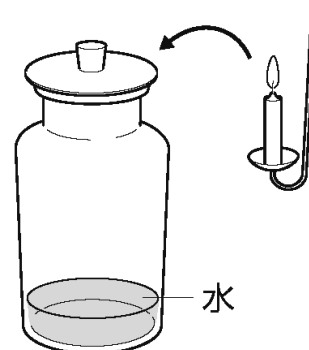
()をしてから、水から出す。



3 確かめよう《p. 16参照》

火のついたろうそくを2の方法で集めた気体（ちっ素・酸素・二酸化炭素）の中に入れたときのろうそくの様子を、表にかき入れよう。

気体	燃えたかどうか (○・×)	びんに入れたときのようす
ちっ素		
酸素		
二酸化炭素		



4 まとめよう《p. 16参照》

()の中にあてはまる言葉を書き入れよう。

- ・空気中に一番多い()の中では、ろうそくは燃えない。
- ・空気中でろうそくが()のは、空気中に()があるからである。
- ・ものが燃えるには()が必要である。
- ・ふたをしたびんの中でろうそくが燃え続けなかったのは、()がなくなったからだと思う。

☆ ()の中にあてはまる言葉を書き入れよう

<ul style="list-style-type: none"> ・()には、ものを燃やすはたらきがある。 ・()や()には、ものを燃やすはたらきがない。
--

家庭学習プリント【6年理科No.4 ものの燃え方⑤】(教科書p.17・210・214)

6年()組()番 名前()

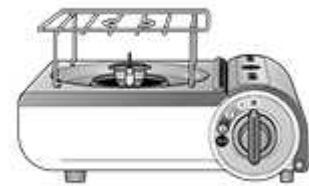
○ 深めよう《p.17参照》

- 1 空気のあるところとないところで木を熱してみよう。
 - ・木や紙を空気中で熱すると、()を出して燃え、()や()になる。
 - また、空気がないときは()になる。

2 実験用ガスこんろの使い方をまとめよう。《p.214参照》

《準備》

- ・()場所に置く。
- ・ガスボンベを切れこみに沿ってカチッと()がするまで入れる。
- ・()を用意する。

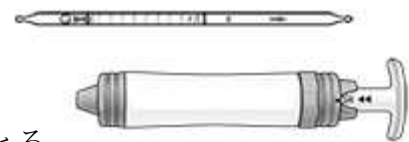


《注意すること》

- ・火がついたままガスこんろを動かしてはいけません。
- ・火を消した後も、ガスこんろやガスボンベには、冷めるまでさわらない。

《手順》

- ① 火をつける
 - ・火力を調節するつまみをカチッと()がするまで「点火」の方に()て、火をつける。
- ② 火力を調節する。
 - ・()を回して、火力を調節する。
- ③ 火を消す
 - ・つまみを()まで回して、火を消す。
 - ・火が消えていることをしっかり確かめる。
 - ・()たら、ガスボンベを外す。
 - ・()つまみを()まで回して、中に残ったガスを燃やす。



2 気体検知管の使い方をまとめよう。《p.210参照》

- ① チップホルダで検知管の()を折り取る。
- ② 矢印の()ほうのはしに、()をつける。
- ③ 検知管の()を気体採取器に向け、差し込む。
- ④ 検知管に書かれている、とりこむ気体の量を確認する。その量が示す印が()と合うように、ハンドルを回す。
- ⑤ びんなどに検知管を入れ、()を一気に引いて固定する。そのまま決められた時間待つ。
- ⑥ 検知管をとり外し、()ところのめもりを読む。